

〔資料2〕

秋田県女性活躍推進プロジェクト (*Mission S*)

秋田県女性活躍推進プロジェクト（Mission S）

女性一人ひとりが輝く居場所を持ち、生き生きと活躍できる秋田を作るために、2021年8月に発足。

1 課題

- (1) 女性自身の挑戦を引き出すロールモデルや精神的支柱の不足。
- (2) 県内企業経営者にメリットが正しく認識されていない。
負担感ばかりで、リアルな効果が実感されていない。
- (3) 男女共同参画センターやあきたF・F推進員などが有効活用されていないほか、県民のニーズに合ったサポートが提供できていない。

2 取組方針

本県の現行の施策は他県に劣るものではないため、推進上のボトルネックを明確化し、推進方法を見直す。

3 取組

1 官民一体による女性の意識改革

- (1) 女性の相互研鑽の場として、WEBを活用したラウンドテーブルの定期開催 ⇒ AKITAガールズネットワークの構築
対象：①若手社会人 ②大学生・高校生（就労前）
③60代以降世代
- (2) ゲストスピーカーによる学びの場の提供
- (3) メンバー同志の相互研鑽の場として人材育成活動のサポート

2 企業経営者の理解促進

- (1) 女性の活躍推進に関する企業の好事例の収集と横展開
- (2) TVやSNSなど新たなチャネルを活用した積極推進企業の紹介
- (3) 女性活躍の理解促進に向けた経営者に対する情報提供

3 リソース活用の促進

- (1) 「あきたF・F推進員」や「女性人材登録名簿登録者」、男女共同参画センターの関係者、有識者との対話を通じた仕組み・体制のあり方における課題の洗い出し
- (2) 上記のリソースの効果的な活用方策の検討

4 効果

女性活躍推進は、本県の様々な課題解決の糸口。

- ・ 人口減少による労働力減少の影響緩和
- ・ 世帯収入アップによる経済の活性化
- ・ 県内就職率の向上や、企業のイメージアップ戦略にも寄与
- ・ 若年女性の県内就職促進



1 官民一体による女性の意識改革「ラウンドテーブル」

講演会

今様々な分野で活躍している方を講師にお招きして、経験談やメッセージなどを通じて女性達の挑戦する心を引き出し、後押しする「気づきの場」「学びの場」を提供している。

	第1回	第2回
開催日	令和4年1月24日（月）	令和4年3月13日（日）
講師	株式会社サニーサイドアップグループ 代表取締役 次原 悦子 氏	東京電力エナジーパートナー株式会社 監査役 佐藤 梨江子 氏
参加者	463名 （会場63名・オンライン400名）	260名 （オンラインのみ）
	第3回	第4回
開催日	令和4年5月19日（木）	令和4年8月29日（月）
講師	信子フォーラムジャパン 代表 佐々江 信子 氏	（一社）日本経済団体連合会統括主幹 CATCHY代表 大山 みこ 氏
参加者	645名 （会場315名・オンライン330名）	540名 （会場150名・オンライン390名）



【参加者の感想】

- ・秋田県で女性が仕事を続け、キャリアを積むことは難しいことだと思っていたが、今回の講演会に参加して、自分のキャリアについても考えてみたいと思った。

1 官民一体による女性の意識改革「ラウンドテーブル」

ワークショップ

高校生、大学生、社会人、様々な年代の女性が地域や組織を越え、女性のキャリアアップや思い描く女性リーダー像について自由な意見交換を通じて相互研鑽を図るとともに、ネットワークづくりにつなげている。

	第1回（オンライン）	第2回（オンライン）
参加者	若手社会人グループ 28名 就労前グループ 5名 （高校生）	若手社会人グループ 24名
テーマ	①あなたの職場で輝いている・活躍している女性はいいますか ②あなたの理想の働き方は何ですか	①私の思い描くリーダー像 ②私らしい働き方 何を大切にしたいか
	第3回（対面・オンライン）	第4回（オンライン）
参加者	若手社会人グループ 30名 就労前グループ 21名 （大学生・高校生）	若手社会人グループ 28名 就労前グループ 21名 （大学生・高校生）
テーマ	①組織における自己発信力について（社会人・大学生） ②どのような社会人になりたいか（高校生）	“なりたい自分”をつくり上げるために取り組んでいること



【参加者の感想】

- ・どの年齢、職種でも、自分をより成長させてなりたい自分になるために必要なことは変わらないと感じたので、これからさらに積極的に行動していきたい。

2 企業経営者の理解促進

企業におけるダイバーシティ浸透のための仕組みづくり（案）

Phase I （1～3年） 各地域にダイバーシティ（女性活躍推進）の核となる企業を育てる

【Step1】

- ①企業の実態・ニーズ調査
- ②各地域（県北・中央・県南）におけるロールモデルとなる企業を探す

【Step2】

ロールモデルを育てる

産業労働部：伴走支援

あきた未来創造部：
・職場環境整備等への助成
・あきた女性活躍・両立支援センターによるサポート
・好事例の提供

【Step3】

ロールモデルを核として各地域内企業のボトムアップを推進する

秋田県（女性活躍推進PT）の支援
・情報提供、優良事例の横展開
・各種研修・セミナーの開催
・企業との相互対話

【Step4】

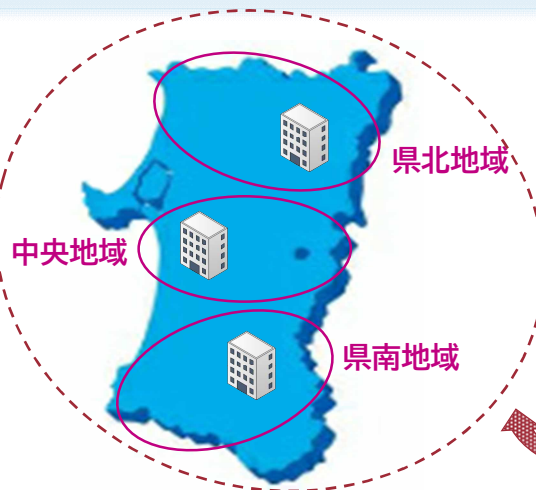
地域内企業でのネットワークと相互研鑽の場を構築する

Phase II （3～5年）

検討中

「核」となる企業をベースにオール秋田のプラットフォームを構築する

Step4をベースに、核となる企業経営者を中心として、県内企業にダイバーシティを浸透させるための環境づくりを推進する



現在「女性活躍推進プロジェクト（MissionS）」で検討しているパッケージ研修など、必要とされる情報提供を関係部署と連携して実施する

2 企業経営者の理解促進

企業ヒアリング（官民対話）

女性活躍推進には企業経営者の理解が不可欠との認識のもと、県の施策が企業ニーズに合致しているか等について、アンケートでは収集できない定性的かつ温度感のある、企業経営者が感じる女性活躍の足かせとなっている課題やニーズを探るために実施。

訪問企業：秋田市／リサイクル業
大館市／情報通信業
由利本荘市／農業、医療・福祉
美郷町／建設業
横手市／不動産業
秋田市／建設業
秋田市／サービス業
美郷町／製造業

計8社

その他期待する効果

- ・複数部局にまたがる課題に部局横断でトライアルすることで、連携した取組のノウハウを蓄積する。
- ・人材育成の観点から、ニーズ把握のための職員の「官民対話力」を醸成する。

企業の声

- ・女性活躍や多様な働き方には男性の意識改革が必要。「家事・子育て・活躍」が女性の「新たな3K」とならないよう、男性のワークライフバランスこそが鍵。
- ・自社の強みをどう発信するか、他社とどう差別化を図るかについて、「ブランディング」という視点が重要。しかし、何から取り組めば良いのかわからない（コンサルティング料の捻出も困難）。

訪問者：陶山理事、MissionS若手サポーター、あきた未来創造部、産業労働部
1社当たり4名程度



2 企業経営者の理解促進

リーダー向けシンポジウムの開催

女性活躍の推進に顕著な取組を実践する企業経営者による講演などの啓発イベントを開催。



メディアによる企業等の好事例の発信

女性活躍の推進に積極的な企業の好事例の映像コンテンツを制作し、あらゆる媒体を通じて発信。



3 リソース活用の促進

女性人材の利活用促進

「秋田県女性人材データバンク」を構築し、女性人材の情報提供と活用を促進。



主要なリソースを対象としたセミナーの企画・開催

「男女共同参画センター」や「あきたF・F推進員」等のリソースのネットワークを構築し、相互連携の仕組みを整備。



4 その他の取組

若年女性の県内定着促進

県内企業の情報や働く魅力の発信

女子大学生目線で県内企業情報や秋田で働くことの魅力取材し、ウェブサイトやSNSで発信。



企業が行う職場環境整備等への助成

行動計画を策定し、その目標達成のために必要となる経費へ補助（補助率1/2、上限2,000千円）。

「えるぼしチャレンジ企業」への支援金交付

国のえるぼし認定を目指す一定水準以上の企業を「えるぼしチャレンジ企業」に認定し、支援金を交付（上限500千円）。

あきた女性活躍・両立支援センターの運営

企業における女性の活躍推進や仕事と育児・家庭の両立支援に関するワンストップ相談窓口や専用電話による相談受付、専門アドバイザー（社会保険労務士）の無料派遣。



広報・啓発

「あきた女性の活躍応援ネット」の魅力向上

Google等でのウェブ広告実施など、サイトの周知を強化。

あきた女性の活躍 応援ネット

女性の活躍推進企業表彰

女性の能力の活用と男女がともに働きやすい職場づくりの取組が顕著な企業等を表彰し、広く周知することにより、企業の自主的な取組を促進。

